

# イネの越境性植物病害虫に対する ゲノム育種的防除技術の開発 (フィリピン共和国との共同研究)

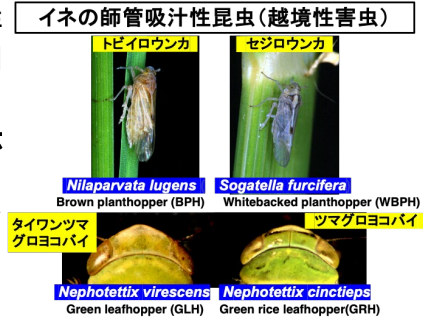
## 1 研究目的

地球温暖化により新たな越境性植物病害虫の蔓延が東アジアの稲作における脅威となっている。ウンカ・ヨコバイ類はイネの篩管部から吸汁してイネの生長を抑制するばかりでなく、植物ウイルスを媒介することによって稲作に甚大な被害をもたらしてきた。

本研究では、**イネの越境性植物病害虫に対する防除技術の確立**を目的として、**ウンカ類抵抗性遺伝子資源の利用**と**昆虫媒介性ウイルス病害であるツングロ病の複合抵抗性系統の育成**に関する日本とフィリピンの共同研究を実施する。加えて、ゲノム情報に基づく**ゲノム育種的手法を用いて新たな抵抗性遺伝子資源の探索と活用**に取り組む。

## 2 研究概要・研究体制

- ① フィリピンのトビイロウンカ個体群に効果的な抵抗性遺伝子資源の利活用
- ② ウイルス媒介昆虫とツングロ病ウイルス増殖抑制に関する**宿主抵抗性遺伝子資源の集積と利活用**
- ③ 南アジア産在来イネのゲノム情報を用いた**新規抵抗性遺伝子資源の探索と利用**



## 3 将来期待される成果

地球温暖化により我が国の稲作の脅威となりうる**越境性植物病害虫への防除素材となる病害虫抵抗性の有望イネ系統を開発**できる。フィリピンをはじめとする東南・東アジア諸国における**イネの越境性植物病害虫に対する効果的かつ持続可能な防除方法の提唱**が期待される。